

平成 22 年度第 1 回科学計測専門部会／#10 STP 事後打ち合わせ 議事録（案）

日時：2010 年 5 月 7 日（金） 13:30～17:00

場所：海洋研究開発機構東京事務所 セミナー室 A・B

出席者（敬称略）

部 会 長：石橋純一郎（九州大学）

専門部会委員：小田啓邦（産業技術総合研究所）、坂井三郎（海洋研究開発機構）、
河潟俊吾（横浜国立大学）

S T P 委員：斎藤実篤（STP 副議長・海洋研究開発機構）、諸野祐樹（海洋研究開発機構）、
林 為人（海洋研究開発機構）

技術開発推進専門部会：佐野 修（専門部会長）

孔内計測 WG：中村恭之（東京大学海洋研究所／共同 WG 長）

古生物 WG：鈴木紀毅（東北大学）

IODP 部会執行部担当：池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）

オブザーバー：山本裕二（高知大学海洋コア総合研究センター）、山本由弦（海洋研究開発機構）

IO[CDEX/JAMSTEC]：五十嵐智秋

MWJ：村上広明

事務局：阿波根直一

欠席者（敬称略）

専門部会委員：石塚 治（産業技術総合研究所）、岩井雅夫（高知大学）

STP 委員：廣瀬丈洋（新規委員・海洋研究開発機構）、成瀬 元（前委員・千葉大学）、
山中寿朗（岡山大学）

1. 開会の辞（委員自己紹介、書記指名：河潟）
2. 配布資料確認 [事務局]・議事次第確認 [部会長]

検討事項（人事案件）

3. 新任 STP 委員の推薦について（配布資料 1）
パネルローテーション（案）を承認した。成瀬元委員・林為人委員が退任し、坂井三郎部
会委員・廣瀬丈洋部会委員を STP 委員として推薦する。
4. 部会メンバーの交代について
専門部会ローテーション（案）を承認した。山本裕二氏・山本由弦氏が就任。

報告事項

5. 前回議事録（案）を確認した [部会長／事務局]（配布資料 3）
6. IODP/J-DESC 報告
J-DESC：AESTO の解散に伴い、CDEX 内に新たな支援体制がつけられた旨が報告された（地
球掘削科学推進委員会が設立され、その下部組織として部会が位置づけられる予定）

IODP：現在募集中の3航海および追加募集の1航海について報告された。(配布資料4)
補足乗船者枠の充足に苦労しているため、関係者に広く周知願いたい。(補足)

7. C-DEX 報告

ちきゅうの今年度の運行計画(今後5航海)が報告された[CDEX]。

- (1) ちきゅうのドック出航は6月初旬になる予定である。
- (2) Exp. 322の航海番号を継続して使用するのには混乱を招く懸念があるという意見が出た。
- (3) Proposal 745-CPP航海は、今後SPCでの審議を経てIODP航海への採否が決定される予定である。
- (4) 航海スケジュールを早めに公開するように改めて要望があった。
- (5) ちきゅうに搭載されている超伝導磁力計の現状について、ちきゅうでの運用に適した改造を行うために適用可能な仕様情報を集めている旨の説明があった。

8. WG 報告

(1) 孔内計測WG [中村]

- ・ H22年度ワーキンググループ委員交代が提案され、承認された。(配布資料2)
- ・ 今年度はまず次の2つのタスクを実施する予定である。1)Exp. 319航海を受けて行われた孔内計測検討会の報告書の作成、2)コアスクール(ロギングコース、泥水コース)の開催。

(2) 古生物WG [部会長(代)]

- ・ 古生物船上マニュアルについて、名称変更したものを暫定版とし、今年度の航海で試行、改訂して、今年度中の完成・公開を目指すこととなった。

9. 10th STP 報告

3月17日～19日にシドニーで開かれた10th STP会議の内容会議で決議された項目について、斎藤副議長より配布資料5に基づいて報告された。各項目について委員間で意見が交わされた。

- (1) 1003-01 新科学プランの1次ドラフト：次回専門部会にて議論する必要がある。
- (2) 1003-08 Reiserless Mud Recovery (RMR)：USIOが試験実施を予定している。
- (3) 1003-10 Formation Factor (FF)測定：各IOが異なる原理に基づく装置で測定を行っているため、測定値のクロスチェックが必要である。その具体的な検証方法を提案することが必要となるだろう。
- (4) 1003-11 カッティングサンプル：高知コアセンター(KCC)に今後の保管(スペースと方法など)に関する検討を依頼する。Exp. 319のEPMに、カッティングサンプルの保管状態における問題点について報告を依頼する
- (5) 1003-15 Cryogenic Magnetometer：ちきゅう船上で使用する機器の仕様をCDEXが検討中である。今年度実施予定のExp. 333には修理(改造)が間に合わない現状を受けて、代替方法をNanTroSEIZE PMTおよびSpecialty Coordinatorで検討していただく必要がある[小田]。
- (6) 1003-16 CT技術：今後IODPでは最新のCT技術を積極的に取り入れる予定である。JR号にCT装置を搭載することは優先事項である。
- (7) 1003-22 IODP Depth Scale document：運用に関する文書のレビューを最近のIODP

航海に乗船した部会委員に送付し、7/1までに意見集約を行う予定である。

- (8) 1003-23 微生物研究のためのコア汚染テスト:本件に関して contact person の紹介が未だ無い。ちきゅう船上でコンタミネーション・テストを実施する測定装置の設置状況を確認する予定である。[諸野]
テスト実施のための原案を作成し提示するために、まずは掘削コンタミタスクフォース会議で議論する予定である。
- (9) 1003-24 コア回収率とコア品質:この問題に関する公式報告書のドラフトを本部会内で回覧してコメントを求める。
- (10) 1003-26 クーロメーターの標準物質の入手とトレーサー実験の方法:次回 STP 会議までに山中委員と諸野委員で対応する。

10. その他

池原執行部担当より以下の連絡があった。

- ・ 5/22(土)に東京海洋大学にて IODP 普及講演会が開催される。
- ・ 5/24(月)に地球惑星連合大会で IODP 地球深部掘削セッションが行われる。

次回の部会は7月下旬を予定

平成 22 年度第 1 回科学計測専門部会 実行／提言／合意項目

合意項目 1005-01 : STP 委員の推薦

廣瀬丈洋部会委員、坂井三郎部会委員の両名を STP 委員として推薦する。

(背景) #10STP 会議において林為人委員、成瀬元委員の二名が退任した。これにかわる委員として、なるべく分野がオーバーラップしている委員を推薦してほしい旨の要請が STP 議長団よりあり、これを受けて両氏の推薦を行う。

合意項目 1005-02 : 新任部会委員

山本由弦 (JAMSTEC)、山本裕二 (高知大学) の両名が科学計測部会の新しいメンバーとして就任する。

(背景) 合意項目 1005-01 により、2 名の部会員が STP 委員に就任する。これを補う委員として、なるべく分野がオーバーラップしている研究者の部会委員就任を進めた。

合意項目 1005-03 : 孔内計測 WG

孔内計測 WG から提案された以下のメンバー交替を承認する。佐柳敬造、木口努、辻健の 3 名が退任し、後藤秀作 (産業技術総合研究所)・加納靖之 (京都大学) の両名が就任する。

提言項目 1005-04 : 古生物 WG

IODP 古生物船上マニュアル (仮称) について、一年以内を目処とした試用期間を設けこの間に乗船研究者によるレビューを行い、その後に確定版として公開することをめざすことを提言する。なおタイトルについては、マニュアルではなく、手引きあるいはガイドダンスという名称が望ましい。

実行項目 1005-05 : Depth Scale Document

STP Action item 1003-22 に対応するために、最近の航海での実施状況の経験などをもとにして、Depth Scale Document の運用に対するコメントをまとめる。

実行者：齋藤、各部会員

実行項目 1005-06 : Detection and Control of contamination issues

STP Action item 1003-23 に対応するために、トレーサー試験の実行計画を含む提案を、タスクフォース会議などの議論を踏まえて作成する。

実行者：諸野、山中、各部会員、タスクフォース会議関係者

実行項目 1005-07 : Core Recovery and Quality Report

STP Action item 1003-24 に対応するために、公式報告書ドラフトの完成にむけてレビューおよび改訂を進める。

実行者：齋藤、各委員